

豊能嶋神社由来

江戸湯島天神を実は豊能嶋神社であるとした近世後期とよしまのと推定される縁起書。西尾市岩瀬文庫蔵で旧目録で「縁起集」として一括する6冊のうちの第1冊。

天手力雄尊が常陸の静（志津）より都に上る時に、武蔵国の「能島」の旅館でそこを無双の勝地として「豊能信真（とよしま）」と宣い、人々はその地に祠を営み産土神に祭ったといい、左の翻刻文に、後に天満宮を勧請とあるように、現在の湯島天満宮でも手力雄命を主神とする戸隠神社が地主神として祭られている。

当地第一豊能嶋神社天手力雄命なりこゝをもつて地主大明神とよしまのと申奉るか古實をうしなわざるのしるしありがたき御神なり

（中略）

豊能嶋神社後の世に至りて神号もなくなつたゝ土民の稱とよしまのひとして地主大明神と祝ちしほひ けり時の別當龍雲信濃ノ國ノ産里民願りみんひていふ地主大明神ハ始め天手力雄命尊の御事なり神号をあらは

したまわれといふ時に宮殿へ地主戸隠大明神の額をかけられけるこのかた已来ハ尊の御神徳ハ戸の内に隠れましく明鏡も曇りたまふか如くむかしにかわり田園をも損亡しそんぼう楼門拝殿御本社にいたる迄頽廢して今の御社ハ石の御宮なり此里寛永のことより繁華の地となりけるこゝに當社境内に天満宮を勸請ありしとなん

(以下略)

註 新日本古典籍総合データベースで「縁起集」として検索。「縁起集, 西尾市岩瀬, 214-175-7, 刊, 1冊, マイクロ/デジタル, 100132699」の画像の6、7コマ目。DOI 10.20730/100132699